フォレストニュース

植林が地球を救う
令和6年(2024)3月10日
No. 194
発行　高津啓洋

特集：日本の森に必要な間伐②

【なぜ杉の人工林が増えたのか？】

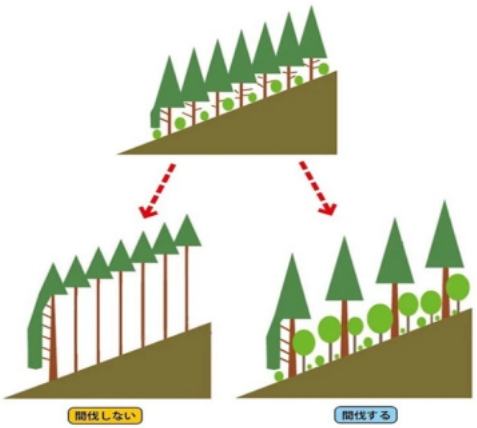
戦中・戦後時代の物資不足により、資材、燃料不足による過度の伐採で森林が荒廃し、全国にはげ山が広がりました。それにより台風、大雨などで度々甚大な災害が各地で発生しました。

その後、戦争被害復興、高度経済成長などによって多くの木造住宅が建築される時代をむかえ、爆発的に木材需要が高まり、天然林を人工林に転換する拡大造林への要請につながります。

また、荒廃した林地への緑化運動の展開も重なることで、1950年代、我が国の固有樹種で加工しやすく、幅広い用途に使えるスギが全国的にすごい勢いで植えられていきました。

現在では森林の約4割が人工林で、人工林の約4割がスギ人工林となっています。

当時、杉や檜は飛ぶように売れました。人工林では、間伐の必要性がありますが、間伐材も売れたので、こまめに間伐して人工林を育成していました。それは『山という農地で杉という作物を育てている』『山という工場で杉を生産している』状況で、自然に生えてくる広葉樹は杉を育てるのには邪魔であったため伐ってしまっていました



【広葉樹のない線香林へ】

その後、木造家屋が減り木造の電柱はなくなった上に、杉の値段が下がったことなど、時代とともに市場で杉は不利な商材になったため費用対効果が悪くなり、伐採されることが少なくなってしまいました。当時多く植えられた木は現在、木材として利用に適した時期を迎えていますが、儲からず、重労働である林業は、林業だけでは生活ができず、更に人工減少、高齢化が進み、林業は衰退していきます。その結果、人工林が放置され、間伐をしない荒廃した人工林が増えていき、 線香林のような、見た目は青々、中身は生態系のバランスが崩れている森が日本の各地に広がっています。

雨が多い日本では、人工林に対して間伐は必要不可欠で『線香林化』が進めば、さらなる悪循環として

・線香林ゆえに広葉樹が育たない
・他の植物の落ち葉がほとんどない。
・杉・ひのきの落ち葉は質が硬い
・土壌動物が少ない
・表土が流れて根が浮き彫りになる
・根も浅いための根倒れ
・倒木→倒れた穴に大雨で水が入る→崩壊

の悪循環に陥っていて

大雨や台風がくるたびに大規模な土砂災害が起こるような事態になっています（続く）

【パンタナール
潜在自然植生　植樹元年】

2024年はパンタナールの地を潜在自然植生で植樹する元年です。パンタナールの潜在自然植生であるケプラッチョの苗もすくすくと育っています。プエルトレダにマウントを作り、潜在自然植生を混植密植していきます。

パンタナール生態系復活のロールモデルを作っていきましょう

［お知らせ］パラグアイの植樹ボランティアを随時募集しています。関心のある方は事務局まで連絡ください